

平成28年度

新宿区協働事業評価報告書

(実施1年目)

(協働事業提案実施事業)

新宿区協働事業評価会

「平成28年度 新宿区協働事業評価報告書」

目次

	新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて・・・・・・・・・・	2
1	協働事業評価の概要・・・・・・・・・・	3
2	評価の目的・・・・・・・・・・	3
3	評価の手法・・・・・・・・・・	4
4	評価の対象・・・・・・・・・・	6
5	協働事業評価実施事業・・・・・・・・・・	7
6	協働事業の評価結果・・・・・・・・・・ ～ 地域防災の担い手育成事業 ～	9
	【参考資料】 ・・・・・・・・・・	13
1	協働事業事前確認書（様式）・・・・・・・・・・	14
2	協働事業自己点検シート（様式）・・・・・・・・・・	15
3	協働事業相互検証シート（様式）・・・・・・・・・・	18
4	ヒアリング時提出資料・・・・・・・・・・	20

平成29年2月10日

新宿区長 吉住 健一 様

平成28年度実施の協働事業提案制度による協働事業について
次のとおり評価しましたので、報告します。

新宿区協働事業評価会 会長 久塚 純一

協働事業評価会委員

	委員の区分	氏 名	職 名
1	学識経験者	会 長 久塚 純一	早稲田大学社会科学総合学院教授
2	非営利活動団体 構成員	副会長 宇都木 法男	一般社団法人 ユニバーサル志縁社会創造センター 理事
3		関口 宏聡	認定特定非営利活動法人 シーズ・市民活動を支える制度を つくる会 代表理事
4	区 民	渡邊 政子	公 募 区 民
5		衣川 信子	公 募 区 民
6		竹井 陽一	公 募 区 民
7	区内事業所の 社会貢献部門 経験者	伊藤 清和	元富士ゼロックス東京（株） CSR部社会貢献推進グループ
8	新宿区社会福祉 協議会職員	高橋 麻子	新宿区社会福祉協議会事務局次長
9	区 職 員	針谷 弘志	総合政策部長
10		加賀美 秋彦	地域振興部長
11		平井 光雄	危機管理担当部長 (事業担当部長)

新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて

新宿区協働支援会議では平成18年3月に「協働事業提案制度の導入について」・「協働事業評価制度の導入について」の2つの報告書を取りまとめ、新宿区長に提出しました。協働事業提案制度は、この報告を受け、平成18年度から導入されたものです。

新宿区は、基本構想・総合計画でめざすまちの姿として『新宿力』で創造する、やさらぎとにぎわいのまち」を掲げ、まちづくりの6つの基本目標の一つとして、「区民が自治の主演として、考え、行動していけるまち」、また、区政運営の6つの基本姿勢として、「区民起点の区政運営」・「地域力を高める区政運営」・「参画と協働を基本に区民の知恵と力を活かす区政運営」等を計画に定めています。協働事業提案制度は、こうしたまちづくりの基本目標等を達成するための具体的な取組みの一つであり、基本構想に掲げる「新宿力」を形づくる一つの手法として「地域の力」と「多様性」を活かす仕組みとなるものです。

協働事業提案制度が推進されることで、多様な主体が担い手となり地域を支える「よりよい地域社会」が形成されると考えます。また、区民が様々な分野で参画する地域社会づくりを進めていくためには、「NPO等と区が実施する協働事業によって地域社会にどのような変化が表れるのか」、「区民の生活の課題がどのように解決されていくのか」を区民に示していくことが必要です。さらに、事業の計画段階から効果測定に至るまで、それぞれのステージで客観的に評価を行い、事業実施に反映し、改善に繋げていくことが大切です。

評価については、平成24年度に実施した協働事業提案制度の見直しにより、評価委員の拡大、評価委員による視察の導入、評価内容の変更等を行いました。特に、評価内容の変更については、事業実施1年目は協働の視点により評価を行い、事業実施2年目・3年目は、協働の視点に加え、「地域課題の解決」・「具体的な成果・効果」・「区民・地域社会への波及効果」の視点で評価を行うこととしました。

このような基本認識の下、事業実施1年目の協働事業を対象に、「計画」・「実施」・「反省と改善」の3項目について評価を実施しました。

採択時から定期的に打合せを行っており、適切な情報共有のもと、事業を進めていることが確認できました。目標として設定した参加者数を達成し、多くの人の防災意識向上につながったものと評価します。

今後も、区民の参画や地域との連携の下、協働のまちづくりが促進され、地域課題の解決が図られ、多様な人々にとって新宿区がさらに暮らしやすいまちとなることを期待します。

本報告書は、新宿区協働事業提案制度実施要綱第11条第2項に基づき、新宿区長に報告いたします。

新宿区協働事業評価会
会長 久塚 純一

1 協働事業評価の概要

新宿区では、各主管課において多様な主体と様々な協働事業が進められており、平成28年度の協働事業進捗調査では、265に及ぶ事業が様々な協働形態で行われています。その中で、協働事業提案制度により平成28年度から実施されている「地域防災の担い手育成事業」について1年目の評価を実施しました。

事業の評価については、平成16年に策定した「地域との協働推進計画」が基本目標として掲げる「多様で新たな区民ニーズへの対応」や「区民の参画意識と主体的な区民活動の促進」、「行政の体質改善」に結びつく取組みになっているのか、また、「相互理解」、「自主・自立性」、「対等の関係」等、6つの「協働の基本原則」を十分踏まえ、事業の目標等が達成できたかといった点から評価を行いました。

協働の中身・質を高め、事業の目標や意図する成果を達成していくためには、協働の当事者が、互いにプロセスや成果を確かめ、議論し合い、相互検証を行うといった、一つひとつの経験を積み重ねていくことが大切です。そして、「計画」・「実施」・「反省と改善」といった各事業の場面における評価基準を定め、客観的にその取組みの評価を行い、実施の場面で改善に繋げていくことが必要です。

そのため、評価にあたっては、事業実施団体と区担当課が、協働事業の開始時に「事前確認書」を作成し、事業の目的や目標、想定する成果等を共有した内容の確認を行い、協働事業の実施中に「協働事業自己点検シート」・「協働事業相互検証シート」を作成し、事業の振り返りのために自己点検及び相互検証を行いました。

これらの資料を基に、協働事業評価会が事業実施団体と区担当課へのヒアリングを行い、第三者評価を実施しました。

事業の評価結果については、9頁以降に記載のとおりです。

2 評価の目的

協働事業の評価は、協働の意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的として行います。

〈協働の意義〉

- ① 区民生活にとって効果的な事業を実施すること
- ② 協働を進めるNPO等と区が相互理解を進め、対等な関係を築いていくこと
- ③ 区民の主体的な活動を推進しコミュニティの形成につなげていくこと
- ④ 前例の踏襲や組織の縦割りの弊害など、これまでの区の仕事の内容や進め方を見直す契機とすること
- ⑤ 様々な主体の自立性を高め役割分担を明確にしていくこと
- ⑥ 協働事業を発展させ、住民福祉の維持向上と住民自治を推進していくこと
- ⑦ 区民ニーズに基づく予算化の優先順位をつけるための判断基準の一つにすること

3 評価の手法

(1) 評価の流れ

事業実施団体と区担当課が作成した「事前確認書」を基本に、それぞれ「自己点検シート」の記入を行い、双方の協力の下、「相互検証シート」を作成します。また、評価時点までの事業の実施概要の提出を求めるほか、受益者からの評価はアンケート等で把握します。

さらに、協働事業評価会委員による事業視察を行い、事業の進捗状況等についても確認を行います。

これらを実評価資料として、協働事業評価会が両者にヒアリングを行い、評価を実施します。

(2) 評価の項目

1年目の評価については、「計画」・「実施」・「反省と改善」の事業プロセスごとに評価を行うとともに、総合評価を実施します。事業プロセスごとの評価は、主に次の着眼点によって実施します。

(3) 評価の公開

評価結果については、ホームページ等により、広く区民等に公開し、事業の透明性を図り、更なる協働の推進に結びつけていきます。事業実施団体と区担当課は、評価の結果により、課題が明らかになった場合には、双方の活動や事業の実施に反映していくことが必要です。

■協働事業の評価にあたっての主な着眼点(1年目)

協働事業評価項目		評価にあたっての主な着眼点
④優れている ③適切である ②課題はあるが、ほぼ適切である ①不十分であり改善が必要 ○その他		※評価は、協働することの意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的に、事業実施者(事業実施団体と区の事業担当課)へのヒアリングにより行います。
計 画	1 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	地域ニーズや課題の共通認識での把握
	2 事業の成果目標の設定	成果目標の明確化と共有、達成度を把握可能な成果目標の設定、費用対効果からみた事業計画の妥当性
	3 協働の相手への期待とその成果	協働の相手方との問題意識の一致、対等なパートナーシップの確立、協働による相乗効果の把握と認識の一致
	4 役割分担の決定方法	十分な意見交換のうえでの、協働を有効に機能させるための役割・責任の分担の明確化
実 施	5 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	事業の進捗状況の確認や意見交換の実施、必要に応じた協議のうえでの事業の進め方の軌道修正
	6 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	目標達成に向けた取り組み状況の共有と検討、必要に応じた協議のうえでの目標達成のための手段の見直しの実施
反 省 と 改 善	7 改善すべき内容の把握	改善方法の検討と共通理解、今後の事業展開に関する方向性の認識の一致

4 評価の対象

(1) 評価対象団体等

- ① 協働事業提案制度による事業実施団体(特定非営利活動法人、市民活動団体・ボランティア団体などの社会貢献活動団体。)
- ② 区の事業担当課

(2) 評価対象事業

協働事業提案制度による28年度実施の1事業
(平成27年度に採択した実施1年目の1事業)

(3) 評価対象期間

平成28年4月～9月
(平成28年度事業計画・9月末までの実施状況)

(4) 評価の実施経過

平成28年 9月	事業実施団体と区に自己点検・相互検証シート作成依頼 事業実施団体と区がそれぞれに自己点検を実施
9月4日	協働事業評価視察会(於:都立戸山公園、新宿スポーツセンター) ○「しんじゅく防災フェスタ2016」
9月26日	事業実施団体と区が自己点検の結果をもとに意見交換し、相互 検証を実施
10月7日	第5回協働事業評価会 ◆ヒアリング 27年度採択1事業
10月21日	第6回協働事業評価会 ◆評価内容の調整・審議 ◆評価書作成方針確認
12月16日	第7回協働事業評価会 ◆評価報告書作成
平成29年 1月20日	第8回協働事業評価会 ◆評価結果のまとめ

5 協働事業評価実施事業

【平成 27 年度に採択、実施 1 年目の事業】

事業名	地域防災の担い手育成事業	ヒアリング 実施日	平成 28 年 10 月 7 日
実施者	実施団体	一般社団法人 ピースポート災害ボランティアセンター	
	区担当課	危機管理担当部危機管理課	
事業目的	<p>区政モニターアンケートをみると、東日本大震災発生時に一時高まった防災意識は時間の経過とともに年々低下しており、また、地域での防災訓練等においても若者世代、子育て世代及び外国人等の参加等が低い状況にある。</p> <p>首都直下地震発生 of 切迫性が指摘されている中、発災時に大切な生命・財産を守るためには、幅広い年齢層及び外国人等への防災・減災意識の啓発及び災害時に率先して災害応急活動に取り組むことができる人材を育成することが必要となる。このため、楽しみながら防災について学ぶことのできる防災イベントと、地域防災の担い手育成プログラムをあわせて実施し、地域防災力の向上を図る。</p>		
事業概要	<p>①防災意識向上を目指したイベントの実施事業</p> <p>「防災の日(9月1日)」の直後の週末である9月4日(日)に“地域と住民のための防災減災イベント”として、「しんじゆく防災フェスタ 2016」を実施する。今年度は、特に「親子、若者、外国人層」をメインターゲットに各種防災・減災プログラムを提供し、楽しみながら防災への意識を高める機会を提供する。なお、本イベントの企画立案・実施にあたっては、区内で活動する組織(社協、NPO/NGO、企業等)から成る実行委員会が担うほか、準備・当日の運営については、区内に在住・在勤・在学者を対象に募るボランティアを積極的に活用する。</p> <p>②地域の防災減災担い手育成プログラム事業</p> <p>災害発生時の新宿区において、率先して災害対応にあたることのできる人材の確保、育成を目的とし、上記イベントの準備期間から区内在住・在勤・在学者を対象に、ボランティアを募集する。ボランティアは、イベントの準備・広報に携わるだけでなく、防災・減災や地域について学ぶ各種セミナーを受講することで、地域防災の担い手としての知識と経験を身につけてもらう。</p>		

<p>目 標 ・ 成 果</p>	<p>「しんじゆく防災フェスタ 2016」実行委員会には、区内で活動するマルチセクターが参画することで平時において顔の見える関係が構築されるため、発災時のスムーズな連携が可能となる。なお、イベントには親子、若者、外国人層を中心に 2,000 名以上、ボランティア(担い手)は「運営ボランティア」「語学ボランティア」「当日ボランティア」「ブース出展者」などのべ 100 名以上を目標とする。実行委員会、ボランティア(担い手)、イベント来場者それぞれの関心に合わせ、地域防災に関する意識と知識を向上させることができる。</p>
----------------------------------	---

上記記載内容は、事前確認書をもとに作成

6 協働事業の評価結果

● 総合評価

B

- A 協働事業として適切で優れていると評価できる。
- B 協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
- C 協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
- D 協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
- E 協働事業としては不十分であった。

・総合評価コメント

いつ起きてもおかしくない首都直下地震やさまざまな災害に備え、区では地域の防災力向上を図るための取り組みや自主防災訓練への積極的な支援を行っていますが、防災訓練の参加者が少ないことや防災区民組織の高齢化などが課題となっています。

この事業は災害への備えや防災訓練に参加することの少ない親子や若者をはじめとする幅広い年齢層が参加しやすいイベントを開催し、楽しみながら防災への意識向上を図るものであり、課題をとらえているものと評価します。また、外国人住民の多さや昼夜間人口の差など、新宿区の特性についても踏まえたイベントとなっている点も評価できます。

事業の実施にあたっては、昨年度に採択が決まって間もなく、団体と区担当課間で打合せを始め、4月からは他の関係団体も含めた実行委員会という形式で打ち合わせを重ねてきました。その結果、目標として設定していたイベントの参加者数・ボランティア従事者数を達成できたことは評価できます。

一方で、この事業が目指しているところは、イベントに参加したことによる区民一人ひとりの防災意識の向上や行動の変化、さらにはボランティアの育成による地域防災力の向上にあります。そのため、本事業へ関わった方にどのような変化が見られたか、アンケート等により確認することが必要です。また、ボランティアの方々に対しても、今後、どのように継続して関わっていただくかについて、団体と区担当課がそれぞれ検討していくことが必要です。

本事業を通じて、区民・町会・NPO等様々な団体が連携し、一体となって地域防災力の向上に向けたネットワークが構築されていくことを期待します。

● 項目別評価

4 = 優れている 3 = 適切である 2 = 課題はあるがほぼ適切である

1 = 不十分であり改善が必要

協働事業評価項目		評価指標
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	4・ 3 ・2・1
	② 事業の成果目標の設定	4・3・ 2 ・1
	③ 協働の相手への期待とその成果	4・3・ 2 ・1
	④ 役割分担の決定方法	4・3・ 2 ・1
実施	⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	4・3・ 2 ・1
	⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	4・ 3 ・2・1
反省と改善	⑦ 改善すべき内容の把握	4・3・ 2 ・1

・評価コメント

	協働事業評価項目	評価点
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	3
	<p>いつ起きてもおかしくない首都直下地震やさまざまな災害に備え、区では地域の防災力向上を図るための取り組みや自主防災訓練への積極的な支援を行っていますが、防災訓練の参加者が少ないことや防災区民組織の高齢化などが課題となっています。</p> <p>その中で、本事業は災害への備えや防災訓練への参加をすることが少ない親子や若者をはじめとする幅広い年齢層が参加しやすいイベントを開催し、楽しみながら防災への意識向上を図るものであり、課題をとらえていると評価します。</p> <p>また、外国人住民の多さや、昼夜間人口の差など、新宿区の特性についても踏まえたイベントとなっており、課題をとらえているものと評価できます。</p> <p>来場者やボランティアスタッフ等の意見についても積極的に把握し、地域防災の担い手の育成に、より一層つなげていくことを期待します。</p>	
	② 事業の成果目標の設定	2
	<p>成果目標として、イベントへの参加者数やボランティアの参加者数を設定しており、客観的で達成度を把握できるものと評価します。</p> <p>一方、この事業が目指しているところは、イベントに参加したことによる区民一人ひとりの防災意識の向上や行動の変化、さらにはボランティアの育成による地域防災力の向上にあります。そのため、上記の成果目標の他、イベント参加者やボランティア従事者にどのような意識の変化があったかアンケート調査を行うなど、この事業がどれほど地域防災力の向上に寄与しているかを確認するための指標も設定することが必要です。</p>	
	③ 協働の相手への期待とその成果	2
	<p>事業の採択時から、実施に向けて定期的な打ち合わせを行っています。区担当課は事業の企画からそのネットワークの活用、さらにはスタッフとしてイベントに参加する等、事業の成功に向けた積極的な姿勢がみられる点、評価できます。</p> <p>多様な主体からなるイベントとしては、行政側のネットワークを生かした団体の参加が目立つ一方、NPO団体の参加に課題が残ったと考えます。本事業は様々な団体を巻き込み、一体となって実施していくことが重要です。より多くのNPO団体が参加できるよう、団体はそのネットワークを生かし、他の防災関連のイベントとは異なる事業となるよう、取り組むことが必要です。</p>	
	④ 役割分担の決定方法	2
	<p>役割分担の決定については、事業の採択時から実施に向けて定期的な打ち合わせを行っており、適切な役割分担について意見交換が行われているものと評価できます。</p>	

	<p>一方、③で述べたとおり、団体の持つネットワークの活用という点では課題が残りしました。コミュニケーションは円滑にとられており、今後、協働を有効に機能させるための役割分担という視点も踏まえ、検討することが必要です。</p>
<p>実施</p>	<p>⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有 2</p> <p>事業の採択時から定期的な打ち合わせを行っており、また、イベントの事前・事後にも打ち合わせが行われるなど、団体と区担当課においては適切な情報共有ができていたものと評価します。</p> <p>一方、本事業の実施に当たっては、NPO・ボランティア・企業等多様な主体が関わっていますが、それぞれ本事業の意義についてどの程度理解していたでしょうか。それぞれが役割を認識し、事業を実施していく必要がある点、課題が残ります。本事業は団体と区担当課が中心となって実行委員会を開催しているため、そのような機会をとらえ、本事業の意義を積極的に周知していくことが必要です。</p>
	<p>⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い 3</p> <p>定期的に意見交換を行い、成果目標や課題も共有されているものと評価できます。また、成果目標として設定したイベントの参加者数・ボランティア従事者数も達成できています。</p> <p>今後は、アンケートなどで参加者や従事者の声を拾うことにより、本事業が地域防災の担い手の育成にどのように寄与しているかについても団体と区担当課で認識を共有し、事業を展開することを期待します。</p>
<p>反省と改善</p>	<p>⑦ 改善すべき内容の把握 2</p> <p>イベント終了後すぐに振り返りを行っており、団体と区担当課の双方が今年度の反省と今後の方向性や改善すべき内容について把握しているものと評価できます。また、来年度の実施に向けて、既に取り組みがみられる点も評価できます。</p> <p>今後、事業を進めるにあたっては、本事業への参加者や従事者の活用について検討する必要があります。特に、ボランティアについては、地域防災の担い手という視点からも特に重要な人材となりますので、団体・区担当課それぞれが一致した認識のもと、今後の活用方法について検討することが必要です。</p>

【参考資料】

協働事業事前確認書（様式） P 1 4

協働事業自己点検シート（様式） P 1 5

協働事業相互検証シート（様式） P 1 8

ヒアリング時提出資料 P 2 0



協働事業提案制度による_____年度実施事業 事前確認書

作成日	年 月 日
-----	-------

事業名		
実施者	団体名	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
事業目標・ 想定される 事業成果		
事業の受益者		
協働により 期待される 効果		

※実施2年目の事業のみ記入

(昨年度の協働事業評価で指摘された課題への対応も含めて記入してください。)

1年実施して把握した課題・問題点	
2年目実施にあたっての改善点	

《協働事業自己点検シート》 1年目用

記入日	記入者	記入責任者
年 月	※どちらかをチェックしてください 団体 <input type="checkbox"/> 区担当課 <input type="checkbox"/>	氏 名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団 体	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
実施期間	年 月から 年 月まで	

※想定される事業成果や受益者について事業実施過程で変更が生じた場合は、現時点欄に記入してください。

事業目標・ 想定される 事業の成果	
-------------------------	--

現時点⇒	
------	--

想定される 事業の受益者	
-----------------	--

現時点⇒	
------	--

* I・IIは、協働の取組みを5段階で評価してください。

5 =十分に達成された (80%以上)	4 =ほぼ達成された (60%~80%)
3 =課題があるものの概ね達成された (40%~60%)	
2 =ほとんど達成されなかった (20%~40%)	1 =まったく達成されなかった (20%未満)

I 協働事業の計画づくり

ここでは、事業を実施するための計画づくり・仕様づくりの段階での協働の取組みについて評価してください。

①計画づくりのプロセスで双方がどのように協力して取り組みましたか。

項 目		評 価				
Q1	率直な意見交換のもとに、対等な立場で計画づくりを進めましたか。 (対等)	5	4	3	2	1
Q2	お互いの自主的な発案を尊重しあって計画づくりを進めましたか。 (自主性尊重)	5	4	3	2	1
Q3	お互いが役割を自覚して、自立的な事業展開ができるように、計画づくりを進めましたか。 (自立化)	5	4	3	2	1
Q4	お互いの特性や立場の違いを理解して計画づくりを進めましたか。 (相互理解)	5	4	3	2	1
Q5	事業目的を相互に確認し明確にして、計画づくりを進めましたか。 (目的共有)	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

②協働事業の質・効果の向上に向けて、どのように計画を検討しましたか。

項 目		評 価				
Q6	お互いの特性を生かしつつ、地域ニーズや課題を的確にとらえた計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q7	協働で行う意義や必要性を相互で検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q8	費用に対する効果を相互に検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q9	役割分担や責任を相互に検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1

Q10	協働で実現する目標を相互に検討・確認をした計画となりましたか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

II 協働事業の実施

ここでは、事業の実施段階での協働の取り組みについて評価してください。

①事業を進めていくプロセスで双方がどのように協力して取り組んでいますか。

項 目		評 価				
Q11	率直な意見交換のもとに、対等な立場で事業を進めていますか。 (対等)	5	4	3	2	1
Q12	お互いの特性を発揮して、持てる力を自主的・効果的に出し合いながら事業を進めていますか。 (自主性尊重)	5	4	3	2	1
Q13	お互いが役割を自覚し、過度に依存することなく事業を進めていますか。 (自立化)	5	4	3	2	1
Q14	お互いの特性や立場の違いを理解して、事業を進めていますか。 (相互理解)	5	4	3	2	1
Q15	事業の目的をお互いが理解し、共有しながら事業を進めていますか。 (目的共有)	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

②事業の質を高めるためにどのような取り組みを行っていますか。

項 目		評 価				
Q16	お互いの特性を発揮して、適切な解決策を見だし、課題を解決できていますか。	5	4	3	2	1
Q17	事業の進捗状況に応じて、必要な情報を共有・活用できていますか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

《協働事業相互検証シート》 1年目用

記入日		年 月 日	
記入者	提案団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体名： ・ 記入責任者 氏 名： 連絡先： 	
	区担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署名： ・ 記入責任者 氏 名： 連絡先： 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署名： ・ 記入責任者 氏 名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団 体	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
事業の受益者		

事業の計画づくり

(協働して事業計画(仕様)をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

●自由意見

しんじゅく防災フェスタ 2016 実績 (9月時点)

- 1 日時 平成 28 年 9 月 4 日 (日) 10:00~17:00
- 2 場所 都立戸山公園、新宿スポーツセンター
- 3 目的 防災について楽しみながら学べるイベントを実施し、幅広い層が防災・減災に興味を持つきっかけをつくる
- 4 対象 新宿区在住・在勤・在学者など
※H28 年度は特に親子・若者・外国人層の参加を促す
- 5 参加人数 約 3,000 名 (各プログラムの参加人数は別紙参照)
- 6 内容 ※別紙プログラムを参照
- 7 主催 しんじゅく防災フェスタ 2016 実行委員会
- 8 HP・SNS 公式ホームページ : <http://bosai-festa.com/>
公式 Facebook : <https://www.facebook.com/shinjukubosai festa2016/>

■関係団体 (法人格等は省略)

- (実行委員会) 新宿区危機管理課、ピースボート災害ボランティアセンター、新宿区社会福祉協議会
東京都公園協会、東京 YMCA、難民支援協会、東京土建新宿支部チーム NAMAZU
東京都助産師会 新宿中野杉並助産師会地区分会
- (協力) 新宿区町会連合会 (広報協力)、新宿消防署 (企画・広報協力)、プラス・アーツ (企画協力)
目白大学社会学部メディア表現学科 (撮影・広報協力)
Earth Literacy Program (企画協力)、熊本県東京事務所 (ブース・企画協力)
グリーンバード新宿チーム (ボランティア協力)、豊南高校手話部 (ボランティア協力)
- (協賛) 伊藤園新宿支店 (物品提供)、スターバックスコーヒー (物品提供)、UMCOR (助成金協力)
IP-Net 株式会社 (物品貸出)、防災・減災日本 CSO ネットワーク (助成金協力)
- (ブース出展) 東京ガス中央支店、東京電力パワーグリッド東京総支社、NTT 東日本、新宿警察署
陸上自衛隊第 1 普通科連隊、新宿区防災都市づくり課、日本気象協会、東京都公園協会
新宿区防災サポーター、伊藤園新宿支店、熊本県東京事務所、ほやほや学会、JCI
スイウミヤンマー、高田馬場福祉作業所「まりそる」、マルマル、新宿区社会福祉協議会
世界の医療団、椿の学びづくり推進協議会／環境復興機構、パルシステム東京
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、東京土建新宿支部／チーム NAMAZU
東京都助産師会 新宿中野杉並助産師会地区分会

■メディア掲載

- 7/18 NHK「首都圏ニュース」／9/2 NHK「ひるまえほっと」／9/5 朝日新聞・地域面
9/12~9/18 JCOM「デイリーニュースダイジェスト」、その他各種インターネットニュースサイト等
<後日掲載・放送予定>
- ・防災啓発番組、公式プロモーション映像 (目白大学社会学部メディア表現学科「めじ TV」)
 - ・「地震に備える」「地震が発生したら」「避難生活の心構え」(映学社)
 - ・高校生用映像教材「これから始める高校生のボランティア活動」

(日本コロムビア株式会社、株式会社ゴッチ)

地域防災・減災の担い手育成 実績 (9月時点)

- 1 目的 「しんじゅく防災フェスタ 2016」の準備・広報活動等への参加を通して、災害時に率先して災害対応に当たることのできる人材の確保、育成を行う
- 2 募集期間 平成 28 年 4 月～8 月 ※一部、3 月に募集開始
研修期間 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
- 3 募集種類 A) フェスタ運営ボランティア：事前研修にも参加、当日のボランティアリーダー等
B) 語学ボランティア：フェスタ当日の通訳・翻訳、コミュニケーションサポート
C) 当日ボランティア：フェスタ当日の設営・企画・運営サポート・片付け等
D) ブースボランティア：各ブース出展団体の職員・ボランティア等
- 4 募集条件 防災・減災に関心があり、積極的に活動したい方
区内在住、在勤、在学のいずれかに該当する方（その後も受け入れ）
18 歳以上（当日ボランティアは 15 歳以上）
事前の説明会、フェスタ当日の活動に参加できる方
- 5 募集方法 「しんじゅく防災フェスタ 2016」公式ホームページ、Facebook
実行委員会団体の職員、団体登録ボランティア・会員等
インターネット情報ポータルサイト、区内の大学生ボランティアサークル
新宿区社会福祉協議会「災害ボランティア養成講座 スキルアップ編」受講者
ピースポート災害ボランティアセンター「災害ボランティア・トレーニング」受講者
- 6 研修内容 4/29(金) わが家の災害対応ワークショップ 参加：10 名
5/22(日) 新宿区の被害想定と学校避難所視察（四谷中学校）参加：11 名
6/26(日) 多文化共生防災まち歩き 参加：19 名
7/18(月) 熊本支援 NGO 合同報告会 参加：14 名
9/04(日) しんじゅく防災フェスタ 2016 当日の各防災・減災プログラム
10 月以降 各地区の避難所防災訓練への参加呼びかけ
※その他、わが家の災害対応ワークショップ講師養成、子ども向け防災プログラム「イザ！カエルキャラバン模擬練習会」、「災害ボランティア入門」講座（期間問わず）等

■ボランティア参加人数（フェスタ当日不参加者は除く）

合計 219 名

- ・運営ボラ：21 名（ボランティアリーダー13、広報 5、防災教育 3）
- ・語学ボラ：29 名（英語 12、中国 3、ポルトガル 1、アラビア 1 名、やさしい日本語 1、手話 11）
- ・当日ボラ：125 名
（団体：東京土建チーム NAMAZU、東京 YMCA、グリーンバード新宿チーム、早稲田 POST）
- ・ブースボラ：36 名
- ・その他：撮影ボラ 8 名（目白大学社会学部メディア表現学科「めじ TV」）

以上

しんじゆく防災フェスタ2016 各プログラム参加人数一覧 (20160923更新)

資料 3

※インフォメーションで配布したうちわプログラム数は2,500枚。不要・グループで1つの受取などもあったので、来場者はそれ以上。

作成:PBV

場所	やぐらステージ	人数	やぐら広場	人数	やぐら周辺	人数	芝生	人数	セミナーテント	人数	スポーツセンター				人数	ロビー(1F、2F)	人数		
											幼児体育室(1F)	大会講室(2F)	人数	小会議室(2F)				人数	
テーマ	パフォーマンス	360	防災体験・訓練	1,980	車両展示・体験	455	14テント	-	20分×1コマ	136	救命講習・予備	80	フォーラム	50	セミナー&本部	52	展示	350	
担当	ディレク:事務局 司会:早稲田POST プログラム:各ゲスト		東京YMCA 危機管理課 新宿消防		危機管理課 新宿消防		各出展者 事務局・協力団体		各セミナー担当者		新宿消防 ※英語グループあり		ディレク:事務局 司会:運営ボウ加藤 二部運行:阿部(早大)		日本語:運営ボウ 英語:PBV やさしい:JAR、区		事務局、危機管理課 写真会:新宿消防 触れる地球:ELP		
準備・設営																			
1000	オープニング (鶴巻小、区長挨拶)	100	カエルキャラバン ×5種目	1,200	起震車 1000~1600	315	ブースオープン 飲食×5 防災×9	-	ブース団体控 ①1100~手話講座 ②1130~おたま劇場 ③1200~助産師会① ④1230~構の学び	救命講習 第二会場 900~1200	80	救命講習 第二会場 900~1200	-	防災教育ボラ オリエン	-	触れる地球 1000~1700	250		
1100	ナダレンジャー (防災科学実験)	20	1000~1530											わが家WS 90分 (日本語・手話あり) 1030~1200	10				
1200	防災クイズ (しんちゃん)	30	区関係機関 防災体験コーナー	-															
1300	かえっこオーケシオン 1230~1300	30	消防:煙ハウス 1000~1600	400	ハンゴ車 1000~1600	140	※内容は プログラム参照 1000~1630						休憩場所・設営 1200~1330		わが家WS 120分 (英語) 1300~1500	22	消防生人会 1000~1600		
1400	ナダレンジャー (防災科学実験)	30	消防:煙ハウス 1000~1600	400									講演 シンポジウム 「防災教育」 1400~1600		外国人防災講座 やさしい日本語版 1630~1730	20	スタハコ七一 1300~1400	100	
1500	熊本アビール (くまモン)	120	消防:その他 応急救護・ロープ D織ボンブ ミニ防火衣撮影	380	消防広報車 救急車														
1600	かえっこオーケシオン 1530~1600	30																	
1700																			

片付け・撤収

H28年度新宿区協働事業年間スケジュール(抜粋)

資料 4

2016/9/23

■しんじゅく防災フェスタ2016

作成:PBV

	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	9/4	10	11
事務局 (PBV)	協力団体声かけ		準備会 資料作成	ウェブ制作 開始	ポラ勉強会 当日企画 案づくり	事業契約書等作成 助成金・協賛金打診 運営ポラ勉強会開始	施設利用申請開始 資機材レンタル業者選定 語学ポラ募集開始	プレイベント準備 広報協力打診 当日ポラ募集開始	当日パンフ作成開始 資機材等発注開始 各プログラム確認	利用施設最終確認/ 等広報活動(翻訳会) 備品消耗品差発注 当日人員調整	直前準備 イベント簡易報告		中間評価 イベント清算	
危機管理課				当日企画アイ デア出し	契約書作成		ボランティア勉強会 (避難所について)	教育委員会協力依頼 防災関係機関協力依頼 調整小の協力依頼調整 区議会報告	教育委員会協力依頼 防災関係機関協力依頼 調整小の協力依頼調整 区議会報告	広報掲載・チラシ配布 防災関係機関調整 当日従事職員調整	直前準備 委託料支払		中間評価 避難所訓練案内	
実行委員会	11/6(金) 関係者会議	12/4(金) 関係者会議	1/14(木) 関係者会議	2/16(火) 第1回準備会	3/22(火) 第2回準備会	4/19(火)1600-1800 第1回実行委員会	5/25(水)1600-1800 第2回実行委員会	6/23(金)1400-1600 第3回実行委員会	7/26(火)1300-1500 第4回実行委員会	8/21(日)1400-1600 第5回実行委員会	9/3(土)1400-1500 第6回実行委員会			
	協力団体 検討 スケジュール確認	規約検討	協力団体確認	準備会開始	事務局・大企 画の検討	実行委員発足 ブース募集意見交換	広報体制確認	事務局・大企 画確認	当日の体制確認 雨天時の体制確認	実行委員、運営ポラ 顔合わせ 人員配置案確認	各担当ごとに準備			
協力・協賛 団体				準備会参加 オフサーバー 可	実行委員会参加希望の確認		協力内容別に準備			直前確認	直前準備			
ボランティア						運営ポラ募集開始 (6月まで)	語学ポラ募集開始 (7月まで) 説明会・勉強会・M開始	当日ポラ募集開始 (8月まで) 運営ポラチームわけ	当日ポラ説明会開始 運営ポラ各チーム準備	運営・語学ポラ 実行委員会参加	運営ポラ 実行委員会参加		振り返り会 & 次年度検討	
ブース							発表前調整	募集要項発着 保健所相談開始	7/15申込み切 追加募集検討	出展者向け説明会 8/28(日)1000-1100	直前準備			
広報				ロゴ・イラスト 検討	ウェブ一次案	ウェブサイト公開 運営ポラ募集開始	簡易チラシ作成 SNS(Facebook)開始	当日ポラ募集チラシ 各団体からの広報 ブース出展応募開始	7/18プレイベント 最終チラシ マスコミリリース①	広報しんじゅく マスコミリリース② 装飾、Tシャツ作成	マスコミ対応 ウェブサイト報告			

■ボランティア、担い手育成

	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	9/4	10	11
ポラ説明会					3/26(土) 社協登録ポラ向 け	運営ポラ説明会①② 4/23(土)個別対応 4/26(火)1830-1930	運営ポラ説明会③④ 5/15(日)1300-1400 5/16(月) 催行中止	運営ポラ説明会⑤⑥ 6/18(土)1100-1200 6/25(土)個別対応	当日ポラ説明会① 7/24(日)1000-1130	当日ポラ説明会② 8/7(日)1000-1130 ブース出展説明会 8/28(日)1000-1100	当日オリエン 9/4 本番午前・午後		アンケート集計	
ボランティア 勉強会①						わが家の災害対WS 4/29(金)1300-1430	被害想定と避難所視察 5/22(日)1400-1600	熊本地震NPO報告会 7/18(祝)1400-1600	熊本地震NPO報告会 7/18(祝)1400-1600	カエルキャラバン模擬 8/25(木)PM	当日企画への参加			
ボランティア 勉強会②							災害WS講師養成(7/17) ポラ説明会運営(7/24)	防災WS練習(8/8,11) ポラ説明会運営(8/7)				本番		
運営ポラ ミーティング						自己紹介・目標設定 5/22(日)1600-1700		チーム分け 6/26(日)1300-1730	各チーム進捗・懇親会 7/24(日)1300-1600	実行委員会参加 8/21(日)1400-1600	実行委員会参加 9/3(土)1400-1500		振り返り会 次年度再登録	

平成28年6月時点

防災イベントを通して、幅広い世代への防災意識の普及啓発を行う。

目的

★ 幅広い世代への防災意識の普及啓発

防災イベント(しんじゅく防災フェスタ2016)を通して、ファミリー層・若年層・外国人など地域防災に関心の低い区民に対し、楽しみながら防災を学ぶ場や機会を提供し、家庭の防災力の向上と防災訓練など地域の防災活動への参加につなげていく。

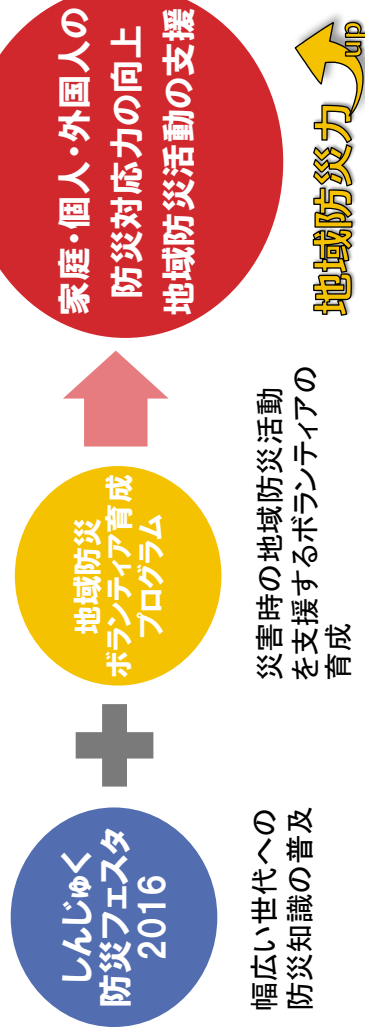
★ 地域防災の担い手育成

熊本地震でも人手不足から課題となった、避難所の運営支援や倒壊家屋の瓦礫処理の手伝い等地域の災害応急活動の支援を行うボランティアの育成を行う。

事業内容

- ① しんじゅく防災フェスタ2016
- ② 地域防災の担い手育成プログラム

防災対策へのきっかけづくり 地域防災の担い手



しんじゅく防災フェスタ2016

ファミリー、若年層及び外国人等の幅広い年齢層が参加しやすい体験型の防災イベントを実施し、住民主体の地域防災活動について理解してもらい、参加につなげていく。(今年度)に第1回を実施し、30年度の第3回まで実施予定)

- 開催日時 9月4日(日) 午前10時～午後5時
- 開催場所 都立戸山公園及び新宿スポーツセンター
- 参加者(想定) 2,000名
- 開催内容(予定) 消火訓練、親子の防災体験、災害科学実験パフォーマンスタ、ゆるキャラの防災クイズ、防災教育シンポジウム及び東北復興ブース等

地域防災の担い手育成プログラム

しんじゅく防災フェスタの準備・広報活動への参加を通して、地域の防災活動を支援することができるボランティアを育成する。

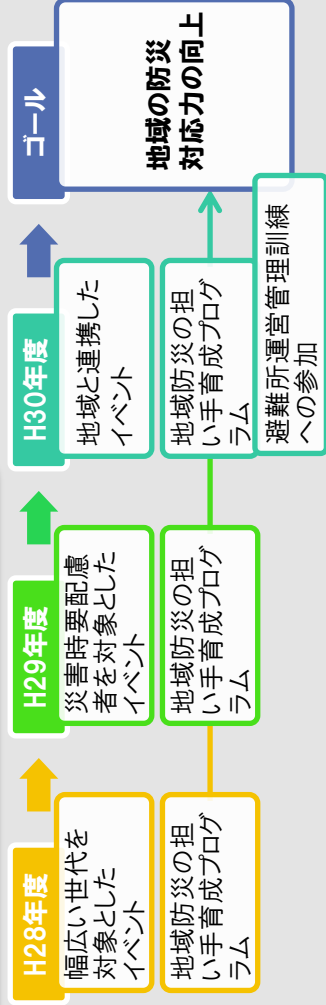
地域防災の担い手候補育成(20名程度)

- フェスタの企画・運営を通して、防災活動への理解を深める
- 5月から月2回程度、防災・減災に関する研修を実施
 - ✓ 一般的な災害対策活動
 - ✓ 避難所訓練への参加

当日ボランティア(100名程度)

- イベントの準備や当日のみのボランティア
 - イベント終了後には、翌年度の企画・運営スタッフへの参加を促す
- ※29年度は、地域防災の担い手候補育成につなげる

今後の展開 ~防災フェスタ2016-2018~



しんじゅく防災フェスタ 2016

SHINJUKU BOSAI FESTA 2016

2016.09.04 SUN 10:00-17:00

都立戸山公園 / 新宿スポーツセンター ※雨天時は、一部プログラムを変更して実施します。

「しんじゅく防災フェスタ 2016」は、新宿区と区内 NPO、事業者、大学等が協力して企画・運営に当たっています。また、100 名を超えるボランティアを含め、「みんなでつくる防災イベント」を心がけています。防災・減災について、来場者の皆様とともに楽しく学べる 1 日になることを願っています。





新宿シンちゃん

- 会場配置、プログラム等については変更になる場合がありますのでご了承ください。
- 熱中症予防のため、こまめに水分補給や休憩を取るなど、無理をしないように心がけましょう。また、体調不良時にはすぐにスタッフに声をかけてください。
- 語学サポート（英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、アラビア語、やさしい日本語、手話）をご希望の方は、インフォメーションテントまでお申し出ください。
Language support (English, Chinese, Korean, Portuguese, Arabic, Easy Japanese, Japanese sign language) is available at the information tent.

ブース&休憩コーナー Booths+Rest Corner

芝生広場 | 10:00~17:00

飲食ブース

- ①ドリンク販売（株式会社伊藤園 新宿支店）
- ②東北・熊本復興応援ブース（協力：熊本県東京事務所、ほやほや学会）
- ③やきそば、フランクフルト販売（JCI）
- ④カキ氷、生ビール販売（実行委員会）
10:00～パン（高田馬場福祉作業所「まりそる」）
12:00～ミャンマー料理（スィウミャンマー）の販売も！（個数限定）
- ⑭ケバブ販売（マルマル）

一般ブース

- ⑤椿がつなげる学びと防災の輪
（椿の学びづくり推進協議会 / （一社）環境復興機構）
- ⑥身近なもので作れる防災グッズ（新宿区社会福祉協議会）
- ⑦こども木工作（東京土建新宿支部）
- ⑧救助体験（東京土建新宿支部チーム NAMAZU）
- ⑨国内外の災害支援現場から考える、被災時の医療と健康
（認定 NPO 法人世界の医療団）
- ⑩緊急時に子どもを支えるために～東日本大震災・熊本地震の支援現場から～
（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）
- ⑪乳幼児親子の防災①『災害時の抱っことおんぶ』
（公益社団法人東京都助産師会 新宿中野杉並助産師地区分会）
- ⑫乳幼児親子の防災②『被災時に赤ちゃんを守る栄養』
（公益社団法人東京都助産師会 新宿中野杉並助産師地区分会）
- ⑬子ども地震クイズ（生活協同組合 パルスシステム東京）



セミナーテント Seminar Pavilion

芝生広場中央 | 10:00~16:00

各種ミニセミナー開催！

※各時間帯のセミナー内容は、テント前の掲示板をご覧ください。



防災訓練・体験

Disaster Education + Drills

やكدouの広場 | 10:00~16:00

A



おもちゃのかえっこコーナー。
いらなくなったおもちゃをもってきてね！

- ・水消火器での当てゲーム
- ・毛布で担架タイムトライアル
- ・ジャッキアップゲーム
- ・紙食器づくり、防災カードゲーム
- ※「おたま劇場」はセミナーテントで実施します。

B

- ・煙体験ハウス
- ・D級ポンプ作動訓練
- ・ロープ結索訓練
- ・応急救護訓練
（新宿消防署）

C

- ・防
- ・電
- ・防
- ・新
- ・自
- ・住
- ・ト
- ・防
- ・戸



写真：新宿消防署提供

▲西早稲田駅（徒歩5分）
Nishi Waseda Sta. (5 mins walk)



屋内：特別企画、展示

Special Programs
+ Exhibition

新宿スポーツセンター

3F	大体育室 雨天時 ※雨天時には、一部プログラムを変更して大体育室で実施します。
2F	大会議室 14:00~16:00 防災・減災教育フォーラム 基調講演『東日本大震災を生き抜いた子どもたち』 事例紹介・パネルディスカッション 小会議室 10:00~17:00 10:30~ わが家の災害対応ワークショップ（日本語・手話） 13:00~ Household Disaster Preparedness Planning Workshop (English) 16:30~ 外国人防災講座（やさしいにほんご）
	通路 10:00~17:00 「はたらく消防」写生会優秀賞（消防総監賞）作品展示
1F	幼児体育室 9:00~12:00 救命講習（普通救命講習） ※事前予約者のみ ロビー 10:00~17:00 特別展示 デジタル地球儀「触れる地球」 新宿区の防災・減災（資料配布コーナー） 13:00~ スターバックスコーヒーの無料提供（限定100杯）

岩手・釜石からの
ゲストも！



パフォーマンスステージ

Performance Stage

やくどうの広場ステージ | 10:00~16:00

10:00	オープニング [演奏：新宿区立鶴巻小学校金管バンド] 新宿区長の挨拶
11:00	Dr. ナダレンジャー「防災科学実験ショー」(1回目)
11:45	ご当地キャラクターの防災クイズ
12:30	かえっこバザールオークション (1回目)
14:00	Dr. ナダレンジャー「防災科学実験ショー」(2回目)
15:00	くまモンがやってくる！
15:30	かえっこバザールオークション (2回目)



特別車両展示・体験

Rescue Vehicle
+ Earthquake Simulation

やくどうの広場周辺 | 10:00~16:00

- | | |
|-----------|----------|
| I 救急車 | III はしご車 |
| II 消防広報車 | IV 起震車 |
| ミニ防火衣装着体験 | |



防災クイズにチャレンジ！（東京ガス（株）中央支店）
気安全について（東京電力（株）パワーグリッド東京総支社）
災に役立つ通信サービスの展示（NTT 東日本）
宿警察署防災展示（新宿警察署）
衛隊災害派遣装備品展示（陸上自衛隊第1普通科連隊）
宅の耐震化について（新宿区防災都市づくり課）
クする！防災プロジェクト（一般社団法人日本気象協会）
災紙芝居と炊出しごはん（新宿区防災サポーター）
山公園と防災（(公財)東京都公園協会戸山公園サービスセンター）

注目プログラム Pick UP!



子どもたちに大人気!

イザ!カエルキャラバン!

戸山公園 やくどうの広場
10:00~16:00

おもちゃの物々交換(かえっこ)と、楽しくアレンジした防災プログラムを組み合わせた防災イベントです。「阪神・淡路大震災の教訓・知恵を次の世代へ伝えたい!」そんな想いから生まれ、家族や友達と楽しみながら防災知識が身につく工夫がたくさん。今回は、6種類の防災体験プログラムと、ステージ上で2回の「かえっこパザールオークション」を行います。使わなくなったおもちゃを持って、みんな集まれ!



東北からのゲストも!

防災・減災教育フォーラム

新宿スポーツセンター 2F 大会議室
14:00~16:00

基調講演は「東日本大震災を生き抜いた子どもたち」。津波から多くの命を救うことになった岩手県釜石市の防災教育について、ゲストの森本晋也さんからお話を伺います。後半は、学校や地域で防災・減災教育に取り組む皆さんによるパネルディスカッションです。スポーツセンターの別会場では、初心者向けの防災セミナーや、外国人向けの英語・やさしい日本語でのセミナー・ワークショップも行います。



特別展示

デジタル地球儀 「触れる地球」

新宿スポーツセンター1Fロビー
10:00~17:00

リアルタイムの気象情報や地震・津波、渡り鳥など生物の地球移動、大気汚染、地球温暖化など、生きた地球の姿を実際の地球の1600万分の1の球体にダイナミックに映し出します。2005年愛・地球博、2010年オランダ国立博物館、2015年国連防災世界会議、2016年伊勢志摩サミットなど、世界各国の国際会議などでも多数展示。2005年グッドデザイン「金賞」受賞、2013年キッズデザイン賞「内閣総理大臣賞」受賞。



パフォーマンス

Dr. ナダレンジャー 「防災科学実験ショー」

戸山公園 パフォーマンスステージ
11:00~/ 14:00~

Dr. ナダレンジャー(納口恭明氏)は、北海道出身の理学博士で、元独立行政法人防災科学技術研究所総括主任研究員。ピンポン球数十万個を使った模擬雪崩実験など雪と氷の災害研究をするかたわら、雪崩シミュレータ「ナダレンジャー」、地盤液状化実験装置「エッキー」、固有振動「ゆらゆら」などを開発し、幼児から専門家までを対象にした災害科学教育活動を展開。ユニークなパフォーマンスをお楽しみに!

注意事項

- 雨天時は一部プログラム、会場を変更して実施します。荒天時にはイベント自体を中止することもあります。
- イベントを妨害、または妨害のおそれのある行為はしないでください。実行委員会が必要と認める場合には退去を求めることがあります。
- 会場では、ブース出展団体がブース内で実施するものを除き、事前に実行委員会の許可がないビラ・チラシ配布行為、物販・募金活動は禁止されています。
- イベントの様子を広く発信するため、当日は実行委員会記録スタッフや各種メディアによる取材・撮影が行われます。記録スタッフやメディア関係者は腕章または名札をつけています。撮影を希望しない方はお申し出ください。

しんじゅく防災フェスタ 2016 実行委員会

新宿区危機管理担当部危機管理課 / 一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター / 社会福祉法人新宿区社会福祉協議会 / 公益財団法人東京都公園協会
公益財団法人東京 YMCA / 認定 NPO 法人難民支援協会 / 東京土建新宿支部チーム NAMAZU / 公益社団法人東京都助産師会 新宿中野杉並助産師会地区分会
【協力】

新宿区町会連合会、新宿消防署、新宿区教育委員会、特定非営利活動法人プラス・アーツ、目白大学社会学部メディア表現学科、グリーンバード新宿チーム
【協賛】

株式会社伊藤園 新宿支店、スターバックスコーヒー、IP-Net 株式会社、防災・減災日本 CSO ネットワーク、UMCOR

発行元

しんじゅく防災フェスタ 2016 実行委員会 発行日: 2016年8月30日
デザイン: 矢野瑛子 イラスト: 伊集院イッツ

この発行物に対するお問い合わせは、

(事務局) 一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター

東京都新宿区高田馬場 3-13-1-2F-A TEL. 03-3363-7967 / FAX. 03-3362-6073 MAIL. shinjuku@bosai-festa.com

(新宿区) 危機管理担当部危機管理課地域防災係 東京都新宿区歌舞伎町 1-4-1 TEL. 03-5273-3874 / FAX. 03-3209-4069



平成28年度 新宿区協働事業評価報告書（実施1年目）

平成29年2月発行

印刷物作成番号

2016-13-2601

編集・発行 新宿区地域振興部地域コミュニティ課管理係

東京都新宿区歌舞伎町一丁目4番1号

電話 03-5273-3872

この冊子は、森林資源の保護とリサイクルの促進のため、
古紙を利用した再生紙を使用しています。